

平成24年8月8日(水) 14時00分～16時00分 江別市民会館23号室

### 外部評価作業

- ・ ①01-01 循環型社会の形成
- ・ ②07-03 開かれた行政づくり
- ・ 出席委員  
井上分科会長、加藤委員、高田委員、桑名委員
- ・ 説明員
  - ① 明石課長(廃棄物対策課)、澤田課長(減量推進課)、立石課長(施設管理課)  
中町主幹(施設管理課)
  - ② 天野課長(広報広聴課)、渋谷課長(総務課長)
- ・ 事務局(政策調整課)  
鈴木企画政策部長、米倉企画政策部次長  
川島課長、酒井主査、稲田主査、竹下主任、馬場主事

### 会議録

- ・ 外部評価作業
  - 政策01 環境と調和する都市の構築
    - 施策01 循環型社会の形成
      - ・ 14時00分～14時10分 明石施策マネージャー説明
      - ・ 14時10分～15時00分 質疑応答・指摘・評価

～全体を通して確認したい点、疑問点～

#### 【加藤委員】

基本事業03「適正なごみ処理の推進・啓発」の成果指標で「環境クリーンセンター 運転停止日数」とあるが、この指標は停止日数が少ないことをもってごみ処理が適正に行われているという解釈か。

#### 【明石施策マネージャー】

ごみ処理施設は国等の基準があり、運転計画日数の96%以上稼働することとなっている。そこから考えると、平成23年度実績の運転停止日数2日というのは極めて少ない日数であり、適正に処理されている。

#### 【井上分科会長】

説明にあった部分は日数だけに見えるが市民が指標として見る際に、目安となるようなものは資料や情報にアクセスすれば見えるようになっているのか。説明がなければ、市民は単純に「日数が少ない」としか見るができない。

#### 【明石施策マネージャー】

運転停止日数をみるには、この施策評価をHPで見るしかないが、市HP内「ごみと

リサイクルのページ」で排出ガスなどの測定結果や処理量のこと、循環型社会形成推進地域計画の中でクリーンセンターの発電量などを情報提供として掲載している。

**【井上委員】**

了解した。

**【高田委員】**

同じく基本事業03「適正なごみ処理・啓発」について。成果指標で「不法投棄処理件数」があるが、これは地デジ化に伴って予想されていたことだと思うが、その対策、またどのような所に不法投棄がされたのか、告発や処分等について伺いたい。

**【明石施策マネージャー】**

地デジ化に伴う不法投棄への対策は、広報えべつ7月号やHP上で適正な廃棄を呼びかけたが、テレビは平成22年度では92台、平成23年度は116台と24台増加し、市街化調整区域で33台増えた。啓発したものの不法投棄されたものに関しては投棄者がわからないので、市で処分するしかない。

なお、昨年北海道新聞の取材を受けたが、他市に比べ投棄台数の増加が少ない理由として、我々の対策はもちろんだが、「市民皆さんの理解があるため」と回答している。

ごみ行政に関しては、市民の方々に正しい分別などの協力いただいていることで順調な結果が出ていると考えている。

**【高田委員】**

その部分の予算は計上していたのか。

**【明石施策マネージャー】**

予算は80万円程度みていた。

**【高田委員】**

不法投棄が後を絶たないようなので、今後の対策等よろしくお願ひしたい。

**【明石施策マネージャー】**

了解した。

～評価項目についての指摘・提言～

▼施策01-01 循環型社会の形成

**【高田委員】**

平成16年度より家庭ごみの有料化を開始したが、それに伴う減量の程度や効果を施策の環境変化に記載してはどうか。

**【明石施策マネージャー】**

3割程度の減量が達成されたことは事実なので、記載を検討する。

**【高田委員】**

進行管理の中で焼却炉の稼働については理解したが、埋め立て等の最終処分はどこでどのような状況で行われているのか。また、受け入れ残量などに課題はないか。

**【明石施策マネージャー】**

八幡の環境クリーンセンターの近くに新しいごみ処分場があり、平成16年6月から

稼働しているが、ごみ袋の有料化によるごみの減量化に伴って残存年数が予定より5年伸びて平成35年まで使用ができる。

**【井上分科会長】**

とすると、これに関しては課題とまでは考えていないということか。

**【明石施策マネージャー】**

その通りである。

**【加藤委員】**

施策の環境変化で「消費やごみ排出における市民ニーズの変化」とあるが、これは具体的にはどのようなものか。前段で「社会環境の変化」とあるので「生活環境の変化」と記載したほうがよいのではないか。

**【明石施策マネージャー】**

大量消費であったものが少なくなってきたことや、市民の要望により市として大型ごみの収集を開始したことなどからこの表現にしたが、その部分を補記することは吝かではない。

**【井上分科会長】**

ただ、ここは環境の変化なのでそのような細かいことではなくて、人口減少・世帯減少によって変化した私たちの暮らしの考え方や、排出に対する意識を「ニーズの変化」と捉えているのではないか。そのような変化があったために新しい計画を1年前倒しで策定できたのではないか。大型ごみに関する内容は具体的過ぎるので、もう少し大きく括った内容でわかりやすい記載を検討してはどうか。

**【明石施策マネージャー】**

参考にして検討したい。

**【桑名委員】**

環境変化の文章が少しわかりにくく感じる。1つ1つ箇条書きになっているが、もう少し言葉を補って1つの文章として表現した方がよいのではないか。

**【明石施策マネージャー】**

「基本計画策定時」「法律の変化に伴い見直し時」「その後」の3つに敢えて分けた記載にしたが、1つの文章にまとめた方が良いということか。

**【桑名委員】**

読み手としては、1つの文章の方が読みやすいように思う。

**【明石施策マネージャー】**

表現に工夫ができないか検討する。

**【高田委員】**

「子育て世帯などを対象にした指定ごみ袋無償配布などの制度の検証が必要である。」とあるが、どういうことか。

**【明石施策マネージャー】**

指定ごみ袋無償交付要件が現在非常に細かく規定されており、対象者をもう少しわかりやすく外部に発信できないか検証が必要だということである。

**【井上分科会長】**

ここで敢えて「子育て世帯などを対象にした」と書かなくても、「指定ごみ袋無償配布などの制度による配付状況・使用状況の検証が必要」としてもよいのではないかと。

**【高田委員】**

公平性の点から考えると子ども手当との兼ね合いもあると思うがどうか。

**【井上分科会長】**

特別に無償にしている対象もあるかと思うがどうか。

**【明石施策マネージャー】**

子育て支援、身障介護、生活保護の方が受けているが、そのなかでも一番多く無償配布を受けているのは子育て支援の方である。このため「子育て世帯」とした。指摘のように、敢えて限定的な対象を記載しない方がいいようにも思うので工夫したい。

**【井上分科会長】**

無償配布制度の検証が必要だということが伝わればいいので、敢えて疑問符が付くような記載は避けた方がよい。文章として間違いではないので何らかの整理を検討願いたい。

**【高田委員】**

成果指標「市民1人当たりごみ排出量」で、後期目標値が720gとある。江別市一般廃棄物処理基本計画では平成32年度の目標値を910gと設定している。江別市も人口減少の流れがある中でなぜ成果指標以上の数値が設定されているのか。

**【明石施策マネージャー】**

実際に市で集めている分が平成23年度では726gで、基本計画の中で記載されているものには、自治会で集める集団資源回収約9,700tが上乗せされるために910gになっている。この見方でいくと平成21年度は939gとなる。

**【井上分科会長】**

成果指標で「家庭系ごみ」と「事業系ごみ」を1つにまとめて記載をしているが、「基本事業01：ごみの発生・排出の抑制」の成果指標では分けて記載している。また「基本事業02：ごみ資源化の推進」では分けての記載は見られない。「基本事業03：適正なごみ処理の推進・啓発」では家庭系への啓発なのか事業系への啓発なのかわからない。見やすいように家庭系と事業系に分けて記載することが望ましいのではないかと。

**【明石施策マネージャー】**

「基本事業01：ごみの発生・排出の抑制」では、環境クリーンセンターに搬入される段階で、事業系・家庭系の「燃える・燃えない」を分けることはできるのだが、回収された鉄やアルミは出口では一纏めになって出てくるので、一般家庭からの回収量などは把握できない実態があるため総量での記載になる。

**【井上分科会長】**

了解した。

意図のところ、「資源がリサイクルされ循環し」とあるが「循環し」の部分は不要ではないかと。

**【明石施策マネージャー】**

表現を検討したい。

## ▼基本事業01「ごみの発生・排出の抑制」

### 【桑名委員】

達成状況の記載だが、これを読むと事業系のごみのことについて説明がほとんどのようで、家庭系のごみについての説明が不十分に感じるがどうか。対象に市民が入っている以上、家庭系ごみについて主要事業一覧にもあるようなコンポスト等についての記載も必要ではないか。

### 【明石施策マネージャー】

施策の達成状況で一般家庭についての記載をしたことや、基本事業01の中でも家庭系ごみの排出量は目標値に近い値となっていることに比べると、事業系のごみ排出量の方が目標値との乖離が大きいこともあり、このような記載となっている。

### 【井上分科会長】

市民が積極的にマイバッグを持つことやコンポストの利用により、ごみの減量に寄与している現実があるので、それをここで評価しておくことが今後も市民がごみの減量に寄与していくことへのモチベーションとなるのではないか。市民に一生懸命協力していただいていることを当たり前のことと思わずに、さらにその協力が進むように評価することが大切なのではないか。

### 【明石施策マネージャー】

了解した。表現を検討する。

### 【井上分科会長】

事業の目的で「ごみを「つぐらない」「ださない」ことにより」とあるが、市民や自治会がどうすればごみの発生抑制につながるかというモデルパターンを示していただければよいと思う。

### 【明石施策マネージャー】

マイバッグ・簡易包装などを支援していくというだけで、なかなか示せるような具体策まではない。マイバッグ所持の啓発・食用油の回収などできる限りのことはやっているが体系的なものは今の段階ではない。

### 【井上分科会長】

マイバックを持つことで、レジ袋がどれだけ削減されたかというデータは環境省やいろいろな団体から出されている。コンポストについても利用する市民は増えてきているはずである。そのようなものが数値化されて見えてきているはずで、それらをうまく組み合わせることで「これだけ削減ができる」ということを示せばよいわけで、良い事例を示すことが削減に繋がるという道筋をたてるのが、良い情報提供になるのだと思う。前向きに受け止められるような書き方を検討してはどうか。

### 【澤田課長】

コンポスト・資源回収・食用油の回収・リサイクルなど項目が多くあるが、その中でも代表的なものを挙げていけば、よりわかりやすい記載になるということか。

### 【井上分科会長】

その通りである。それぞれの項目が右肩上がりだと思うがどうか。

**【澤田課長】**

その通りである。

**【井上分科会長】**

それだけ市民が努力しているということで、施策の環境変化として、消費のスタイル・意識が変わってきているということへの裏付けにもなる。表現に工夫をしてほしい。

**▼基本事業02「ごみ資源化の推進」**

**【高田委員】**

成果指標に「資源化率」があるが、わかりやすく全国比や全道平均という指標があつてはどうか。

**【澤田課長】**

それぞれ過去の数字は把握しているが、その数値は同一年度とならない。

**【井上分科会長】**

生活スタイルなどが類似している自治体の値を示すのであれば意味があるようにも思うが、都心部・農村部によって大きく変化する数値なので平均値を比較することは難しいように思う。

**【明石施策マネージャー】**

江別市の資源化率はすぐに把握できるものの、全道・全国の数値は2年遅れて把握が可能となるということもある。

**【井上分科会長】**

達成状況で「資源回収ルートの多様化が進んだことが要因」とあるが、「要因」という記載は良いことなのか悪いことなのか分からない。

**【澤田課長】**

平成23年度の回収量が平成22年度に比べて増えてはいるが、従前の増え方から見ると横ばいとも言える。その原因が、ごみとして出しているということではなく、民間の事業者の回収など別ルートでの資源化が進んでいることだということで表現している。

**【井上分科会長】**

説明としてはよくわかったが、そのことは文章だけからだ読み取れないのではないか。

**【桑名委員】**

文章として伝えたいことはわかるが、文章表現に工夫をして「良いことなのだ」という印象を与えられるようにした方がよいのではないか。

**【明石施策マネージャー】**

了解した。

**▼基本事業03「適正なごみ処理の推進・啓発」**

**【高田委員】**

収集運搬のルートの見直しやごみステーションの設置方法について市としては何かガイドラインや取決めはあるのか。

**【明石施策マネージャー】**

収集運搬については、業者に区域・曜日・終了時間を明示するだけで、その範囲で業者の創意工夫に任せている。ごみステーションの設置方法はHPにいくつかの基準を掲載している。

**【井上分科会長】**

「不法投棄処理件数」「不適正排出処理件数」が成果指標になっているが、ごみ処理全般に関わる市民からの苦情等について統計的に取りまとめているのか。

**【明石施策マネージャー】**

残念ながら、現地に行くなどした場合には資料として残るのだが、電話での問合せのうちその会話の中で解決したものに関してはデータを残してはいない。

**【井上分科会長】**

市民の声全体の中で、ごみに関するものの比率などは捉えているか。

**【明石施策マネージャー】**

HPへのアクセスがベスト10に必ず入っていることは把握している。しかし江別市全体の市民からの苦情電話は交換を通す場合もあれば、直接担当課にかかってくる場合もあるため、市民の声全体のうち、どれだけの割合がごみに関する苦情かということの算出は難しい。

**【井上分科会長】**

行政としてそれでは引っ込み思案ではないか。もっとポジティブに考えて、「江別市の市民からの苦情等の中でごみに関するものはこんなにも少なく、啓発活動や市民の協力もしっかりできているのだ」と捉える数字として収集・分析したい、と考えていただきたい。そうでなければ自分たちの行っている施策が市民に受け入れられているかという評価をどこで判断するのか。市民の声全体をまとめているところで、どれだけ自課の苦情等があるかを把握できるような仕組みを作っていけないものか。

**【明石施策マネージャー】**

苦情や提言が広報担当に入ってきたものに対しては、内容や件数・対処などを取りまとめているが、江別市全体の苦情等となると把握が難しい。

**【井上分科会長】**

了解した。しかし、既にある情報や苦情等を上手に使うことが啓発に生きてくると思うので要望として提言しておきたい。

また、基本事業名は「適正なごみ処理の推進・啓発」にも関わらず、達成状況の中では啓発に関する部分が読み取れないように思う。

**【加藤委員】**

啓発するということは予防的な意味合いが強いと思う。予防的な対応に関する記載があることが望ましいように思う。

**【明石施策マネージャー】**

実際は看板やのぼりを掲げる、郵便局と通報協定を結ぶなどやっていることはあるが、確かにこの記載のままでは見えてこないように思う。

**【井上分科会長】**

そのようなことをせっかく行っているのならば記載をしたほうがよい。

**【明石施策マネージャー】**

了解した。

～まとめ・評価～

**【井上分科会長】**

それでは評価のまとめに入りたい。

施策についての評価はどうか。

**【桑名委員】**

いくつか指摘があったので「概ね適切」としてはどうか。

**【委員】**

(同意)

**【井上分科会長】**

基本事業01に関してはどうか。

こちらは表現としては「適切」としてはよいのではないか。

**【委員】**

(同意)

**【井上分科会長】**

基本事業02に関してはどうか。

いくつか文言の整理など指摘があったので「概ね適切」としてはどうか。

**【委員】**

(同意)

**【井上分科会長】**

基本事業03に関してはどうか。

達成状況に記載の文言について、補記が必要ということで「概ね適切」としてはどうか。

**【委員】**

(同意)

**【加藤委員】**

一つ確認しておきたい。施策の課題で「ごみの発生抑制(リデュース)、再利用(リユース)、再生利用(リサイクル)」とあるが、基本事業のほとんどが、「リデュースとリサイクル」に関するものである。具体的な事業で資源の再使用をするようなこともしていると思うのだが、成果を上げるような取り組みは行っているのか。

**【澤田課長】**

リユースという面で行くと家具類を扱う「リサイクルバンク」が挙げられる。

**【加藤委員】**

それは不要なものを必要な方に還元するというものか。

**【澤田課長】**

その通りである。

**【井上委員】**

そうすると、「基本事業02：ごみ資源化の推進」の目的に「再利用」という言葉もあるので、リサイクルバンクの利用状況等を記載しても良いように思う。

**【澤田課長】**

指摘のように、達成状況での記載を検討したい。

**【井上分科会長】**

以上で、施策01-01「循環型社会の形成」についての外部評価作業を終了する。

**政策07 安全で快適な都市生活の充実**

**施策03 開かれた行政づくり**

- ・ 15時05分～15時15分 天野施策マネージャー説明
- ・ 15時15分～16時00分 質疑応答・指摘・評価

～全体を通して確認したい点、疑問点～

**【各委員】**

特になし。

～評価項目についての指摘・提言～

**▼施策07-03 開かれた行政づくり**

**【高田委員】**

施策の課題の中で「自前の広報媒体による～」という書き出しの段落があるが、マスメディアの発展に伴って広報誌の性格が曖昧にはなっていないだろうか。新聞・テレビ等で情報を得ることができる中で、広報誌の利用がされているのか。

**【天野施策マネージャー】**

新聞、テレビ等のマスメディアがすべての行政情報を扱うわけではない。やはり広報誌は市民と市を結ぶ最も身近な情報伝達手段であり、その役割もますます重要なものになると考えている。しかし、報道機関を利用しての情報提供は第三者における中立性・客観性・速報性に加え、広範囲にわたる情報提供というメリットがあり、今後も大いに活用していかなければならないと考えている。

**【高田委員】**

了解した。

**【加藤委員】**

施策の環境変化で「地方自治体としても自己決定権が拡大することで」とあるが、江別市としての意思決定できる権限が拡大することで」ということだと思うが、一般市民の方には理解しにくいのではないか。

**【天野施策マネージャー】**

了解した、検討したい。

**【高田委員】**

広報誌の配布率はどの程度か。

**【天野施策マネージャー】**

配布率は平成23年度で約86%である。自治会経由で配布しており、自治会への未加入世帯が増加している実態がある。

**【高田委員】**

未加入世帯には配布していないのか。

**【天野施策マネージャー】**

自治会の判断次第であるが、基本的には配布していない。その代わりに公共施設やコンビニ等に広報誌を設置している。

広報誌の全戸配布の検討の中で、過去にポスティング業者を使っただけの全戸配布について自治会の代表者らと意見交換したことがあるが、自治会に対する補助金が減ることや、広報の回覧によって地域での結びつきが育まれるという思いもあり、自治会活動自体を否定することになる等の意見も出て、相当な抵抗があった。未加入世帯への配布についても、脱会した方とは喧嘩別れしているようなケースもあり、協力的な対応は難しいようである。

そのため、広報誌を見てもらうための努力として、昨年度、新規に広報誌を置いてもらえるコンビニを30件開拓するなど、設置個所を増やす取組みを進めている状況である。

**【高田委員】**

自治体への未加入世帯はそのような所で情報を入手している実態はあるのか。

**【天野施策マネージャー】**

ある。設置している広報誌は手に取ってもらえていると聞いている。

更に、今年度の取組みではあるが、広報誌の表紙が目立つようカラー化の工夫も行なっている。加えて、転入者には転入時にこれまで広報誌の設置場所についての案内に文字情報でお知らせしていたが、昨年度から設置場所を地図に表示し案内の裏面に印刷することで、広報誌の設置場所を分かりやすくし、入手しやすい環境を整えている。

**【高田委員】**

了解した。

**【井上分科会長】**

その部分を施策の課題に記載できないか。「視覚に訴える」や「ホームページ」へのアクセスができるようにすると記載はあるが、それは待つ情報ではなく得る情報なので、自分に都合のいい情報だけを選んで取る人が増えているように思う。行政としては万遍なく伝えたいということがあるので、広報の在り方の課題としては「全世帯に公の情報を伝えるための工夫」があったほうが良いように思うので検討していただきたい。

**【天野施策マネージャー】**

了解した。

**【加藤委員】**

成果指標「行政情報の共有化を感じる市民割合」とあるが、アンケートから数値を算出していると思うが、「共有化」という言葉がアンケートを取る際に市民の方がわかるような設問形式になっているのか。市の施策の情報・祭事の情報・広報的な啓蒙普及に関わる情報などある中で、すべてを含めて「市政に関わる情報の共有化」としているのか。

**【天野施策マネージャー】**

設問としては、「市政に関する情報・広報の提供」と「市に意見を伝える機会・場所」について満足度合を調査し、その数値をここで記載している。

**【加藤委員】**

アンケート結果の数値をそのまま用いているわけではないのか。

**【天野施策マネージャー】**

「行政情報の共有化」に関する2つの設問を総合的に勘案して数値を算出しており、この成果指標に直に合わせた設問ではない。

**【加藤委員】**

そのこと自体に問題があると言っているのではなく、2つの設問の割合を合成しているということ、情報を伝えるという意味でも注釈等で書き添えておく必要があるのではないか。

**【天野施策マネージャー】**

了解した。検討したい。

**▼基本事業01「広聴の充実」**

**【高田委員】**

基本事業の目的で「広聴体制や広聴制度」とあるが、「広報体制や広聴制度」ではないのか。

**【天野施策マネージャー】**

基本事業01「広聴の充実」、基本事業02「広報の充実」と2つに分かれているので、ここでは広報に関する言及はしていない。

**【高田委員】**

了解した。

**【桑名委員】**

達成状況の記載が、成果指標に対する説明が大半になっているように感じる。成果指標の上げ下げについて、改めて達成状況の中で「〇〇ポイント向上」等と記載する必要はないと思う。目的に対して実際にどのようなことをしたのかということに記載したほうがよいのではないか。

**【天野施策マネージャー】**

確かに指摘のように思うので表現を検討したい。

**【井上分科会長】**

パブリックコメントに関する記載もこの基本事業の中で表現がされていない。今年度はパブリックコメントの案件はなかったのか。

**【天野施策マネージャー】**

案件はあった。そのため記載を加えるかについて検討したい。

他市の事例を見ると、例えば出前講座などもこの施策の範疇でやらなければいけないのではないかと感じている部分はある。その部分は事務事業全体を見極めながら整理したい。

**【井上分科会長】**

「広聴の充実」として基本事業としているのであれば、どのように市民の意見や考えを伺う体制を取っているのかの記載があったほうが、市民にとっては声を上げやすい。

**【加藤委員】**

達成状況で市民の声の件数について説明があるが、達成状況のコメントとしてだけで

はなく、参考指標として経年でこの件数が表わされていると市民の方はわかりやすいように感じる。成果指標「広聴機会について満足している市民割合」が前回の調査より約3%向上、また成果指標「市民の声が市政に反映されていると思う市民割合」も前回の調査より約3%の向上が見られるが、「市民の声の件数」という実数で平成21年度は327件なのに対して平成23年度は348件と約6%の増である。その一方で、過去5年間の平均は388件とあり、それと比べると平成23年度は件数としては低い水準である。アンケートによる市民の意識も大事だが、実際に市政に自分の意見を反映したいという市民意見の件数も重視したほうが市政を行う上でいい判断材料になると思う。

実際に市民の声に対して、いろいろな部門ごとに要望や苦情等に対して回答の仕方は具体的に対策を練ってやっているのか。個人的に回答するものや、市民がより多く理解した方がいいものに関してはHPを通じて回答するなど複数の情報チャネルを使って具体的な返答をしているのか。

**【天野施策マネージャー】**

個別に意見をいただいた方への対応に留めるのではなく市民全体に還元する、ということか。

**【加藤委員】**

個別対応でも案件次第では良いと思う。ただ、要望等の内容が特定の部署等に共通するようなものであった場合には、幅広く回答する仕組みを具体的に行っているかということである。

**【天野施策マネージャー】**

基本的には、質問・意見・苦情等で回答が必要なものがあれば、早ければ1週間、遅くとも2週間以内には所管課で相手方との対応をしてもらうような仕組みになっている。市政に関する重要な案件については意見等あった場合には市長の閲覧を通しての処理となっている。その中で汎用性の高いものを市民に還元するという体制は、現状では取っていない。ただ、震災がれきの受け入れの問題では相当な反響があったため、広報誌の紙面等を使って市の意思を表明するなどしているが、個々の案件の取扱いについて整理する必要がある。検討していきたい。

**【加藤委員】**

了解した。

**【井上分科会長】**

広聴を充実させるということは広報を充実させることに跳ね返ってくるので、市民の意見や苦情等を「聞いた」で終わりにさせるのではなく、それをどのように循環させて使っているのかということがこの基本事業の評価内容で読み取れるとよいのではないかと。文言の整理を検討していただきたい。

**【高田委員】**

基本事業の目的の内容は、要望等に対する庁内での内部の意思統一はどのようにして図っているのか。

**【天野施策マネージャー】**

担当は広報広聴課で行っていて、案件については回答を長引かせないよう配慮してい

る。概ね遅くとも2週間以内には所管課に案件を回付し、回答をもらう。複数の所管に関わる案件については広報広聴課で取りまとめ、1つの所管のみに関わる案件については直接市民の方と連絡を取り対応するという対応している。

**【井上分科会長】**

文書処理の内規はすでに確りと決まっているということで良いのか。

**【天野施策マネージャー】**

その通りである。

**▼基本事業02「広報の充実」**

**【高田委員】**

暮らしの便利帳への評価はどのようなものか。また今後もこの作成は続けるのか。

**【天野施策マネージャー】**

暮らしの便利帳は協同事業者が集めた広告収入により本の編集・製本・印刷すべてを賄ってできたものである。広告収入数千万円の確保が必要な事業となるので、毎年の作成は難しい。昨年作成したので、2年に1回の割合でこの事業を継続できればと考えている。今回の暮らしの便利帳は、2,000万円以上の経費を財政負担無しに、地元事業者の協力で作成し、全戸配布までできた官民協働の好事例であると考えている。

良し悪しの評価については直接聞いてはいないが、個人的には江別の古くからの歴史にも触れ郷土愛を想起できる工夫も行い、想いを込めた事業であった。

**【高田委員】**

費用はすべて事業主の負担なのか。

**【天野施策マネージャー】**

そうである。

**【井上分科会長】**

使ってもらえた上で評価が高まればスポンサーも喜ぶ。その良い評価を出すための「広報の充実」であると思うので、より使いやすいものとなるように、例えば毎年江別の大学に入学する学生に評価してもらうなど、スポンサーが毎年更新したくなるような仕掛けを作るとというのが行政の仕事ではないかと思う。

**【天野施策マネージャー】**

了解した。

**【井上分科会長】**

達成状況で「前回調査より6.1ポイント向上しているが」とあるが、ここは「向上している。」や「向上していることは」としないと意味が通じないと思うので文言の整理を検討していただきたい。

**【天野施策マネージャー】**

了解した。

**▼基本事業03「情報公開の推進」**

**【桑名委員】**

情報公開と情報提供については指標や達成状況を読みこむことができるのだが、目的に「個人情報の保護を図るとともに」とあるにも関わらず、個人情報の保護に関する指標や達成状況に記載がないのではないかと。

**【渋谷課長】**

「個人情報の保護をしながら、情報公開と情報提供を推進するという意味の記載だと認識している。誤解がないように、「個人情報は保護する一方で、情報公開・情報提供をうまく両立させていく」というような表現を検討したい。

**【高田委員】**

江別市には情報公開に関するガイドラインはあるのか。

**【渋谷課長】**

それぞれ個人情報保護条例・情報公開条例などで定めている。

**【高田委員】**

住所・男女別・生年月日等は非公開にあたるのか。

**【渋谷課長】**

非公開にあたるケースが非常に多い。行政として様々な情報を知り得る立場として、「不要なものは公開しない」・「個人に関わる情報は他の人には公開しない」・「行政内部の中での情報に留める」というのが主旨であると考えている。

**【高田委員】**

この基本事業に関して、行政によってわれわれは守られていると理解してよいか。

**【渋谷課長】**

その通りである。

～まとめ・評価～

**【井上分科会長】**

それでは評価のまとめに入りたい。

施策についての評価はどうか。

文言の整理をする必要があるということで「概ね適切」としてはどうか。

**【委員】**

(同意)

**【井上分科会長】**

基本事業01に関してはどうか。

達成状況等で文言の整理が必要かと思うので「概ね適切」としてはどうか。

**【委員】**

(同意)

**【井上分科会長】**

基本事業02に関してはどうか。

こちらも達成状況で文言の整理が必要だと思うので「概ね適切」としてはどうか。

**【委員】**

(同意)

**【井上分科会長】**

基本事業03に関してはどうか。

基本事業の目的で文言の整理が必要ということで「概ね適切」としてはどうか。

**【委員】**

(同意)

**【井上分科会長】**

以上で、施策07-03「開かれた行政づくり」についての外部評価作業を終了する。

16:00終了。